

高木復興大臣福島県訪問ぶら下がり会見録

(平成27年12月9日(水) 17:10～17:20 於) Jヴィレッジ(福島県檜葉町))

1. 発言要旨

本日、私、そして長島副大臣、若松副大臣とともに、福島第一原発を視察させていただきました。

私自身は、震災直後に一度訪れております。大臣になってからは、今回初めてということになります。今日は、主に廃炉の状況、そして汚染水対策というのを中心にさせていただきました。

廃炉あるいは汚染水対策というのは復興の大前提でありまして、大変重要なことだというふうに思っております。汚染水対策などもしっかりやっていただいて、いわゆる風評被害というものもなくさなければならない。そんなことも含めて、今日視察をさせていただいたところでございます。

凍土壁の建設工事、あるいはサブドレン設備、海側遮水壁等の汚染水対策の現場を視察させていただきました。作業が一步一步着実に前進していることを実感させていただきました。東京電力には、引続き廃炉作業を安全かつ着実に進めていただきたいというふうに思っております。

政府といたしましても、廃炉・汚染水対策は前例のない困難な事業であるため、前面に立ってこの難事業に取り組んでいきたいと考えております。また、本日現場で実際に廃炉作業の進捗状況を確認した経験も踏まえて、先ほど申し上げましたけれども、汚染水対策が安全に進捗していることを、地元住民の皆様はもとよりでございますが、全国あるいはまた世界の皆様にも伝えるべく努力をしていきたいと、そのように感じた次第でございます。

私からは以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 大臣も原発を推進するという立場で地元のほうでも原発を抱えるお立場でありましたけれども、今日の視察を踏まえられて、やはり原発推進というお考えに変化はありましたでしょうか。

(答) 何よりもですね、これまでもそうでありましたけれども、いずれにしても、原子力発電というものは安全がまず最優先されるべきだということを、改めて今日実感をさせていただいたということでございます。

(問) 原発推進ということのお考えには変化はない。

(答) 推進と言うんでしょうか、政府として、いわゆる世界一厳しいと言われているこの規制基準に合格したものは再稼働させるというのは、これはそういう方針だと思っています。

ただ、たびたびこれも申し上げておりますけれども、福島の発電所については、それと同列に扱うことはできないと、そういうことだというふうに思います。

(問) 先ほどの冒頭の御発言にもつながるかもしれませんが、風評被害

対策など、まだまだ必要だという声があるわけですが、復興庁としてこの件についてはどのように取り組まれますでしょうか。

(答) 先般、知事会がございまして、そのときにもぜひいろいろな知事さん、あるいは県当局、あるいは市町村、時々市町村の皆さん方もお見えになりますけれども、被災地以外の。そういった方たちには、いろいろなツール、よくまち便りのようなものがあるかと思えますけれども、そうしたものにしっかりと、福島ของものは安全だと示していただきたいと思います。

例えば、米は全量検査しておりますし、水産業においてもきちっとそうした管理ができていますということ。そんなようなことを書いていただきたいと思いますし、またあわせて、いわゆる教育旅行、こういったようなことについてもお願いをさせていただいておりますけれども、ぜひこれからも、今日はっきり見てきたわけですので、そうした安全対策がとられていると、正しいことを多くの国民に伝えて、先ほど申し上げましたけれども、海外の方にも伝えて、そしてこの風評被害というものをなくしていくというのが務めだというふうに思っております。

(問) 集中復興期間が間もなく終了ということになるわけですが、2016年度以降ですね、どのような姿勢でこの復興に取り組まれますか。

(答) いよいよ来年度からは新しいステージに入るわけでありまして。岩手あるいは宮城については、順調に復興が進んでいるというふうに思いますが、なかなか次の5年で福島の復興が全て終わるということは厳しいんだというふうに思います。

いずれにしても、福島の皆さんがどういったニーズがあるのか、あるいは町・市によっていろいろな課題がまた変わってくるわけでありまして、そうしたところの声を聞かせていただきながら、まさにたびたび申し上げておりますけれども、福島の皆さんに寄り添いながら、しっかりと次の5年間、復興に向けて、復興の加速化に向けて取り組んでいきたいということかというふうに思います。

(問) 今日、実際に免震重要棟などで東電の作業に当たっている職員の方々などを御覧になられて、実際に真剣に作業なさったと思うんですが、大臣御自身として、そういう現場を見られてどのように感じられましたか。

(答) まずやはり、非常に苛酷な事故であったということ。先ほど申し上げましたけれども、発災直後にも行きました。その頃に比べれば瓦れきの撤去なども進んでおりますし、遮水壁のことにつきましても進捗しているという実感をさせていただきました。

そういったことを、大変厳しい作業環境だというふうに思いますが、あるいは非常に困難を伴う仕事だと思えますけれども、そうしたことを社員の皆さん、あるいはまた関連企業の皆様方が一生懸命にやっただいていてということを実感しましたし、そして、すれ違う方皆さんが「お疲れさまです」「お疲れさまです」というふうにお互いに声をかけ合う。私たちにもそういう声をかけていただきましたし、私たちも「お疲れさまです」と返し

ました。そういう職場環境というんでしょうか、人間関係というのは非常に職場環境に大事だと思いますけれども、大変明るく元気に、本当に困難にめげず難しい仕事をしていただいております。

厳しい作業環境だと思いますけれども、そうした中において、ああいった形でよくコミュニケーションをとりながら仕事をしていただいているということに関して、大変感心もいたしましたし、敬意を表したいというふうに思っております。

(問) 大臣は就任会見でもおっしゃってましたけれども、復興庁は復興全体の司令塔として取り組んでいくということなんですけれども、改めて汚染水対策ですとか含めて、復興庁として、復興大臣として、どのように取り組んでいきますか。

(答) 今日は第一原発を訪問させていただきましたけれども、もちろん除染だとか、あるいは中間貯蔵、あるいは指定廃棄物の処理場の問題、そういったこと、あるいはまた廃炉、第一原発のサイトの中の話、いろいろあります。

まさに、省庁をまたがる形で仕事をしなきゃならないわけでありましてけれども、それぞれの省庁も頑張っていていただいておりますけれども、今おっしゃったように、まさに横串を刺して、司令塔としての機能を果たしていかなければならないということを改めて福島に入って、そしてまた第一原発の中に入って、そんなような感想を持たせていただいたところでございます。

(問) 改めてではあるんですけれども、大臣の政治資金の問題などで、なかなか復興の議論が進まないという指摘もある中で、それについてはどのようにお考えでしょうか。

(答) 昨日は閉会中審査をさせていただきました。もちろん、私のそういった政治資金等の話もございましたけれども、復興に関する議論もできたというふうに思いますし、貴重な御意見をいただいたというふうに思っておりますので、ぜひそうした委員の声を活かしながら、これから復興行政に活かしていきたいということだというふうに思います。

(問) 野党はこれからも追及する構えですけれども、それに対しては。

(答) それに対しては、丁寧にこれからも説明をしていくということだと思います。

(問) 改めて復興大臣にお伺いしたいんですけれども、免震重要棟で東電の社員の方々に激励の言葉を話しされたということなんですが、具体的にどのような。

(答) まず、私が今回2回目で、両副大臣と訪問させていただいて視察をさせていただきました。仕事でございました。手を止めていただきましたので、そのお詫びも申し上げたところであります。

先ほども申し上げましたけれども、廃炉あるいは汚染水対策というのは、復興の大前提であります。ですから、そういったお仕事をいただいているところに関して敬意を表しました。

あわせて、この廃炉の技術というのは、この福島に限らず、これから国内

のあるいはまた海外でも早晩廃炉という問題が当然出てくるわけですから、この福島での皆さん方の経験あるいは知識、あるいは知見というのが、福島のみならずこれからの国内のそうした原子力の、あるいは海外の原子力の廃炉につながっていく。ぜひ、そうした誇り、気概というものを持って仕事を進めていただきたいということ。

そしてあわせて最後に、何におきましてもやはり安全第一、無事故・無災害でこれからもしっかりと作業をしていただきたいと、そういう話をさせていただいたところでございます。

(問) 発電所の中を視察されて一番印象に残っていることは。

(答) もちろんどれもそうでありますけれども、今日は先ほど来申し上げているとおり、汚染水対策というものを見てきました。主にそれが目的でございましたので、海側の遮水壁の状況、あるいは凍土壁が陸側に関してはもうほとんど完成しているということ。

あるいはまた、サブドレンの井戸など見させていただいて、この汚染水対策というものを着実に進めていただいているという実感を持たせていただきました。

廃炉については、まだ緒についたばかりだというふうに思いますが、一定の計画もあるわけでもありますし、これからしばらく時間はかかりますけれども、廃炉についてもしっかりと進めていただけるものと、そのような確信を持たせていただきました。

(以 上)